

# 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

## 評価結果基本情報

評価年度	平成29年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	学校法人三浦学園
事業所名称	日本音楽学校保育園
評価機関名称	株式会社 学研データサービス

## コメント

第三者評価を行うにあたり、自己評価や利用者アンケート調査の結果のほか、事前資料や訪問調査当日の書類確認など、多角的な情報収集を行いました。訪問調査には保育園の調査経験が豊富な評価者を派遣し、園内見学、保育場面の観察、経営層からのヒアリング、書類確認などを実施しました。

利用者アンケート調査と職員自己評価の集計は、保育と集計処理に精通した評価機関の事務局が担当し、自由意見は個人が特定されないように注意して加工しました。

報告書の内容については、客観性を確保するため事務局内で複数回校正を行いました。

### (内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）</p> <p>1)子どもが心身ともに健やかに過ごせる保育を実践し、十分遊びこめる環境を作ります。2)子どもの個性を大切にしながら、友だちや保育者との共感したり感動したりする心を育てます。3)子どもの気持ちを受け止め、愛着関係を築き、丁寧な保育を行います。4)本法人の併設校である有明教育芸術短期大学をはじめとする保育士養成校や日本音楽高等学校幼児教育コースの実習園としての役割を担います。5)本法人の併設校である日本音楽学校幼稚園や近隣の保育園と連携を図り、地域のニーズに応えます。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>本園の理念や方針に従い、①子どもの利益を最優先として、子どものあるがままの姿を受け止め、それぞれの個性を理解し、保育指導やクラス運営を遂行する能力を身につけること、②保護者と子育ての楽しさや苦労を共有し、保護者の立場に寄り添う子育て支援を実施すること、③職員のそれぞれの役割や立場を理解し、責任をもって職務を遂行すること、④社会人としての常識があり、職員同士で連携したり、信頼関係を築いたり、チームワークを育むことができたりすること、⑤日本音楽学校幼稚園や近隣の保育園等と交流を深め、地域の子育て支援に協力することを望んでいます。</p>
	<p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>本園の理念や方針に従い、①園側の立場になった言動ができる人、②他者との円滑なコミュニケーションを図ることができる人、③自分の立場をわきまえた言動ができる人、④常に向上心を持ち、現状に甘んじない人であることを期待します。</p>

## Ⅱ 全体の評価講評

### 全体の評価講評

#### 特に良いと思う点

1	<p>人事制度を整備し、研修方法の改善や勤務評価の報酬への反映を明確にして、人材育成に取り組んでいます</p> <p>保育者のあるべき人間性を方針に明示し、園の目標・方針の実現を旨とし個人目標を設定しています。何を、どのように、どの程度まで行うかを定め、年2回の振り返りと達成度の自己評価を行っています。その結果を踏まえ、園長面談により課題及び希望を共有し、研修計画に反映しています。今年度は子どもの年齢別の保育技能カリキュラムを導入し、経験の浅い保育士から受講し資質の向上を図っています。職員の勤務評価は目標の達成度、専門能力と勤務態度から、園長、事務局長の協議による評価結果を賞与・給与に反映し、人材育成に取り組んでいます。</p>
2	<p>調理室と子どもが一体化した家庭的な給食提供で、子どもの食べる意欲を促しています</p> <p>調理室とランチルームが隣り合わせにあり、料理の匂いを感じながら楽しみに待ち調理職員と会話をしてコミュニケーションを深めています。ランチルームは0～2歳児が全員で食事やおやつを食べるときには、調理職員は0歳児の離乳食の状況や、子どもたちに声掛けをしながら喫食状態をみて味付けや切り方などに気をつけています。食が進まない子どもには形態を変えて食べられるように配慮しています。食べ終わった子どもたちから「おいしかった」「ありがとう」など自然な声掛けがあり、作る人と食べる人が一体になった給食を提供しています。</p>
3	<p>園周辺の環境を利用した園外保育や栽培・飼育活動で遊びの体験を広げています</p> <p>園は3本の路線が通る駅に面した場所にあり、さまざまな種類の電車や新幹線が見られるため、乗り物が好きな子どもは興味を持って飽きずに見ています。天気の良い日は積極的に戸外に出かけ、公園情報が入ったお散歩マップで目的を持った散歩をしています。大きな池のある公園では棲息する生き物や虫を見たり、自然の木のある公園では花見や木の実を拾って楽器を作っています。遊具は決まりを守って遊び、砂場セットを持って砂場遊びをするなど、園ではできない遊びの体験や発見をしています。また野菜の栽培や小動物の飼育をして生命を学んでいます。</p>

#### さらなる改善が望まれる点

1	<p>地域交流の充実、人手不足の改善に、ボランティアの積極的活用に取り組んではいかがでしょうか</p> <p>地域交流では、見学者の受け入れ、他保育園との交流、行事の地域への開放、系列各学校との交流や、区の支援センターへの参加など種々の活動をしています。一方、園として専門性を生かした積極的活動は十分ではなく、ボランティアの受け入れ体制は整備しているものの具体化は今後の課題であるとの認識もあります。まずはボランティアを活用することで地域連携の幅も広がるのではないのでしょうか。また今回の職員自己評価から多忙であること、人手不足ではという意見が聞かれる点からも、戦力になるボランティアの受け入れを期待します。</p>
2	<p>マニュアルの整備に向けた工夫や、子どもの人権に対する保育の基本書の整備を望みます</p> <p>園のマニュアルは業務の標準化に向けて必要に応じて作成されています。作成されたマニュアルは順に網羅され1冊に綴じて職員が見られるよう事務所に保管しています。マニュアルは会議で定期的に見直しをして周知していますが、項目別に整理し図式や手順書、点検チェックリストなどを作成して見やすくする工夫や、子どもの人権をも守る保育者としての心得や「保育の基本書」として定め、チェックリストを作成して子どもの人権や保護者の対応など自分の保育の振り返りを定期的に行うなど検討を期待します。</p>
3	<p>職員自己評価の結果は高い評価でしたが、「職員のやる気向上に取り組んでいる」の問いでは十分とは言えず、さらなる対応を期待します</p> <p>今回の利用者調査結果は総合評価で「満足」以上の回答は100%と高く、自由意見でも高い評価がありました。職員の自己評価でも、全42項目のうち36項目で「できている」の回答が90%以上と評価結果は十分でした。一方で職員自己評価で1項目のみ「職員のやる気向上に取り組んでいる」では、「できている」が低い水準で、「できていない」という回答も見受けられました。園では、研修受講、目標管理、健康管理、勤務評価の報酬反映などに取り組んでいますが、課題と対応にさらなる工夫を期待します。</p>

### Ⅲ 事業者が特に力を入れている取り組み

1	<p>★ 地域の系列高等学校と連携し、保育実習と音楽会の開催協力を発揮しています</p> <p>地域の系列施設として、高等学校と幼稚園があります。高等学校の幼児保育コースでは、子どもの育成に専門的な取り組みを行い、保育実習では絵本を読んだり、公園に手をつなぎ散歩に行ったり、保育の実体験を学んでいます。子どもたちが保育士や友だち、物や自然とかかわりながら活動し、何を学んでいるかの理解を深めています。保育園主催の「音楽会」では、企画段階から全面的に協賛し、幼児保育の専門性を発揮し、園児たちとともに手遊び、ピアノ演奏によるダンスを披露し、最大の盛り上がりにも貢献しました。</p>
<p>関連評価項目(地域の関係機関との連携を図っている)</p>	
2	<p>★ 子どもたちが落ち着いてゆったりと過ごせる保育環境・生活環境を工夫しています</p> <p>0～2歳児の子ども一人ひとりが安心して十分に遊び込める環境を作っています。子どもの月齢や年齢に応じて動線を考慮し、発達を促す遊具や子どもの居場所を作って少人数で遊べるようコーナー遊びを充実させています。室内は子どもの高さに合わせてパーテーションや棚で仕切り、部屋全体をオープンにして職員や保護者にも子どもの様子を見渡せるようにしています。室内は年齢や季節に合わせた製作や装飾を施したり、小動物を飼育するなど少人数で家庭的な雰囲気作りをして子どもの育ちを促しています。</p>
<p>関連評価項目(日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している)</p>	
3	<p>★ 家族や地域の人に参加する行事を行い、他園との交流で幼児に移行する体験をしています</p> <p>全ての行事に地域の方をお誘いし、行事への参加を呼び掛けています。公園での声掛けやポスターや年間行事表を掲示して気軽に足を運んでもらって園児といっしょに楽しんでもらえるようにしています。園行事の「とどらあ祭り」は盆踊りやおみこし、ホットカフェなどで地域の方も参加して盛り上がっています。運動会は親子、祖父母、卒園児の自由参加で地域の方の競技があり、参加者全員が行事を盛り上げています。近隣の公立保育園との交流では、お祭りの参加や公立園での泥遊び、焼き芋、餅つきなどに参加し、自園ではできない体験をしています。</p>
<p>関連評価項目(日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している)</p>	

## IV 利用者調査結果

### 調査概要

調査対象: 保育園を利用している30世帯を対象に調査を実施しました。在園児は30名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

#### 調査方法: アンケート方式

アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。

利用者総数	30人
利用者家族総数(世帯)	30世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	30人
有効回答者数	24人
回答者割合(%)	80.0%

### 総括

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が17人(70.8%)、「満足」が7人(29.2%)で「満足」以上の回答は合計24人(100%)でした。自由意見には、「自宅では植物を育てたり、昆虫や生き物に触れることが全くないので、大きなあれと水をあげたり、少しずつ育った野菜をみても喜ぶ気持ち、とてもありがたく感じます」「子ども一人ひとりをよく見てくれている。毎日のできごともしっかり伝えていただき、子どもと離れている時の成長を感じる事ができます」「経営層の先生をはじめ、先生方もみな素敵な方ばかりなので安心してお任せしております。談や悩み事にも親身になってアドバイスいただけるので感謝しています」など、感謝の声がありました。項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか」で、それぞれ100%の保護者が「はい」と回答し、とても高い満足度がうかがえます。

### 利用者調査結果

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	24人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。自由意見には、「保育園に行きはじめて、いろいろできることが急に増えました」「成長は親だけでなく、祖父母も関心するほどです」「いろんな公園に行ったり、池のカモにエサをあげたり、砂場遊びや夏はプールで、様々な遊びをしてくれているなど感じています」などの声がありました。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	23人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%でした。自由意見には、「季節のイベントを毎回行い、日本の四季行事が感じられ、良いです」「毎日工夫して、カリキュラムを組んでいただいています」「家でも保育園でしたことをやったり、言ったりして興味を持っていると思う」などの声がありました。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	23人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%でした。自由意見には、「食事のレベルは素晴らしいです。対応力にも感謝です」「とてもおいしく、季節感を出されています。おかわりもたくさんして、アレルギーにも対応しています」「家庭で同じレベルのものを作るのは難しいです」などの声がありました。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	23人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%でした。自由意見には、「季節に合わせた行事を常に行っていただき、助かっています」「他園のおまつりにも参加していました」などの声がありました。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	18人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が8.3%、「無回答・非該当」が16.7%でした。自由意見には、「とても感じよく対応してくれる」「嫌な顔もされず、補食も出してくれたりするので助かっている」などの声がありました。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	19人	どちらともいえない	5人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が20.8%でした。自由意見には、「入口に番号のロックがついています」「避難訓練は毎月やっていて安心です」などの声がありました。その一方で、「女性の先生だけでは限界があると考えます」という意見もありました。							
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か							
はい	18人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が25.0%でした。自由意見には、「参加できない場合、日程について配慮があります」「年初に1年分のスケジュールを頂きます」などの声がありました。							

はい	23人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%でした。 自由意見には、「毎日のようにお話してくださいます」「親身になって世話をしてもらっていて、子育てについてもアドバイスしてくれる」「保護者会後や、連絡帳、日ごろの会話で相談できます」などの声がありました。							
<b>9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか</b>							
はい	20人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%でした。 自由意見には、「食事をするスペースの後ろの棚に、事務用品などいろいろ置いてあるのが少し気になります」という意見もありました。							
<b>10. 職員の接遇・態度は適切か</b>							
はい	24人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「どの職員も丁寧。あいさつもよく、気持ちよく預けられます」「みなさんとても親切です」「園の方たちが子どもの顔、名前を覚えていて園全体で面倒をみていてとてもよい」などの声がありました。							
<b>11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか</b>							
はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
「はい」が95.8%、「無回答・非該当」が4.2%でした。 自由意見には、「対応力が高いと感じます」「子どもの体調に合わせて処置し、連絡もしっかりしてくれる」「冷却シートをはったり、別室で休ませてくれます」などの声がありました。							
<b>12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか</b>							
はい	18人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が8.3%、「無回答・非該当」が16.7%でした。 自由意見には、「信頼しているので、多少のことは気にしていません」「トラブル時の状況や内容をきちんと説明してくれ、その後の対応も考えてくれます」などの声がありました。							
<b>13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか</b>							
はい	24人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「それぞれの立場に立って考えてくださり、信頼しています」「間違ったことや、してはいけないことをした時は、ただ頭ごなしに叱るのではなく、子どもの気持ちをも考えしっかりと説明していると思う」などの声がありました。							
<b>14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか</b>							
はい	18人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	5人
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が4.2%、「無回答・非該当」が20.8%でした。 自由意見には、「そのような状況になったことがないのでわかりません」などの声がありました。							
<b>15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか</b>							
はい	24人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が100.0%でした。 特にコメントはありませんでした							
<b>16. 利用者の不満や要望は対応されているか</b>							
はい	18人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が12.5%、「無回答・非該当」が12.5%でした。 自由意見には、「不満を伝えたことがないので判断できません」などの声がありました。							
<b>17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか</b>							
はい	11人	どちらともいえない	7人	いいえ	2人	無回答・非該当	4人
「はい」が45.8%、「どちらともいえない」が29.2%、「いいえ」が8.3%、「無回答・非該当」が16.7%でした。 自由意見には、「説明があったか覚えていません」「不満は特にはないです」などの声がありました。							

V 組織マネジメント項目(カテゴリ1~5、7、8)

※実施あり:○、実施なし:×、非該当:-

カテゴリ1 リーダーシップと意思決定		
サブカテゴリ1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
評価項目1	事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	実施状況
標準項目1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	○
標準項目2	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
標準項目3	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
標準項目4	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	○
評価項目2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	実施状況
標準項目1	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
標準項目2	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
評価項目3	重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	実施状況
標準項目1	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○
標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○
標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○
講評		
園目標、保育方針を玄関に掲示し、入職時には総務課および園長が説明しています		
園目標、保育方針を玄関に掲示し保護者、職員への周知を図っています。職員には入職時に園のパフレット、就業規則などを配付し項目別に本社総務課、園長が説明しています。パフレットには園目標、保育方針が明示されています。就業規則では職員は園の規則を遵守し、園の発展と秩序の維持・向上に努めることを明示しています。保育課程の確認、各自の目標管理、個人資料ファイルの活用など日々の業務を通じて園の基本事項を振り返っています。保護者には保育園のしおりで説明し、保護者会や拡大委員会で基本方針や中心課題の理解を深めています。		
事業計画書に園の組織図、職務分担表を明示し、年度初めの会議で説明・確認しています		
年度初めの職員会議で新年度の事業計画書を配付し、園長が組織図及び職務内容などを伝えています。組織図では、園長以下組織全体の構成を明示しています。職務分担表では、園長、主任の役割、園だより、避難訓練、年間報告、園児関係などの主な業務内容、年間行事ごとの担当者などを定めています。園長は主要業務は主任、各クラスリーダーと協議し進めるほか、私立園長会、区の説明会及びこども家庭あんしんねっと協議会などに参加しています。また、保護者と子どもを目の前で受け止め、話し合い、アドバイスする保育マネジメントを進めています。		
重要案件は、法人事務局と協議し、事案により事務局長・理事長が決済しています		
園内での起案は事案に応じ園長が主任及び3クラスのリーダーと協議する場合、職務分担に応じ担当者と園長・主任が協議し、各クラスでの協議と並行して担当者が原案を作成する場合があります。事案によっては職員会議で討議して最終案を決定し、主に資金や場所の選定を伴う事案は法人で決済しています。主な事案ごとにフローチャートで明示することで、充実した議論が期待できるでしょう。保護者には、年2回の保護者会で園長が説明し、また、掲示やお知らせなどで伝えています。本年度から3月末の新入園児オリエンテーションでの説明を始めました。		

※実施あり:○、実施なし:×、非該当:-

カテゴリ-2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	実施状況
標準項目1	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○
標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○
評価項目2	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	実施状況
標準項目1	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○
標準項目2	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に 関する情報を開示している	○
サブカテゴリ-2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	実施状況
標準項目1	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、 個別相談など)	○
標準項目2	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師 派遣など)を行っている	○
評価項目2	ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	実施状況
標準項目1	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○
標準項目2	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○
標準項目3	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○
評価項目3	地域の関係機関との連携を図っている	実施状況
標準項目1	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○
標準項目2	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○
講評		
職員には就業規則、個人情報保護宣言、ハラスメント防止規定などの説明を行っています		
<p>入職時に事務局より、就業規則で「この規則を誠実に遵守して、園の発展と秩序の維持・向上に努めなければならない」を基本にして、勤務についての の服務心得や、個人情報の保護宣言で守秘義務を学び、誓約書を交わしています。また、法人全体でハラスメント防止規定などを徹底しています。 職員はこれらの諸規定や関連事項を個人情報ファイルに保管し、職員会議などで理解を深めています。第三者評価結果の公表と、保護者意見・要 望には対応結果のお知らせを予定しています。園の外掲示には園だよりや行事メニューを公開し、地域の参加を募っています。</p>		
見学者の受け入れ、他園との交流、区の支援センターへの参加などに取り組んでいます		
<p>見学者は年間約60名で、離乳食など育児相談に応じています。毎月の近隣保育園2園との交流では遊びの広がりを見つけたり、系列幼稚園との 交流では年少児クラスとふれ合っています。地域交流の行事メニューは年5回、外掲示で参加を募り見学者が多く来訪しています。秋のおまつりでは 自作の提灯がきらめき、敬老会には約14名が参加し、園児のダンスでは皆さんから拍手をもらいました。区の子育て支援センターでは、地域の親子 参加者と遊び、育児相談に応じ、系列短大の幼児教育の学生の協力で「おむつはずし」のトレーニングなども行っています。</p>		
ボランティアの受け入れ体制、区、他園、系列園など地域ネットワークが整っています		
<p>ボランティアの受け入れは本社事務局が窓口で、園長、主任、クラスリーダーが対応します。ボランティアの実績はありませんが、系列高校の生徒 が放課後のクラブ活動(キッズクラブ)で来訪し、保育補助や製作の手伝いをしています。園長は個人情報保護を含むオリエンテーションを行って います。地域ネットワークは、地域交流、区の私立保育園園長会、こども家庭あんしんねっと協議会、地域保育園2園との交流、系列各学校交流などが あります。こども家庭あんしんねっと協議会では支援を要する子どものケース会議に参加し見守り確認などを行っています。</p>		

※実施あり:○、実施なし:×、非該当:-

カテゴリー3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用			
サブカテゴリー1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			
評価項目1	利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		実施状況
標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
標準項目2	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
評価項目2	利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
標準項目2	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○
標準項目3	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
評価項目3	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		実施状況
標準項目1	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○
標準項目2	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○
標準項目3	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○
講評			
<p>入園時のオリエンテーションで、苦情解決のしくみを説明し、理解に努めています</p> <p>入園時に保護者に保育園のしおりを配付し苦情受付、相談体制、第三者委員の利用など詳細を説明しています。玄関にも掲示し「ほっとボックス」(意見箱)を設置しています。事案には苦情解決マニュアルで、また保護者代表、有識者の参加による拡大委員会でも意見交換を通じて園長を中心に迅速な対応に努めています。19時30分の延長続きの保護者に園から勤務確認を要望し、保護者が驚愕されたので謝罪して話を収め、また18時30分を多少遅延し延長料金を支払った保護者から時計の精度の指摘があり、返金・謝罪するなど対応に取り組んでいます。</p>			
<p>利用者意向の把握は、アンケート、保護者会、拡大委員会や日常的にも努めています</p> <p>アンケートは、保護者参加の行事2件及び「一年の振り返り」時に保護者全員から収集しています。年2回の保護者会、年3回の拡大委員会、及び保育参加時には個人面談を実施するなど、種々の機会があります。また、日常的にも送迎時、自由な面談、連絡帳などからの意見・要望には園長が全て受け止め、総合して事案によっては事務局や主任・各リーダーとも協議し対応に努めています。拡大委員会では保護者から玄関の施錠がないのは危険であるとの指摘があり、速やかにオートロックに変更するなどサービスの質の向上に取り組んでいます。</p>			
<p>地域交流、私立園長会、あんしんねっと協議会、評議員会などに参画しています</p> <p>地域交流や交流行事により、他保育園、系列幼稚園などと連携しています。区の連絡会では行政や感染症情報などを、私立保育園では地域や他園の保育状況を、区のこども家庭あんしんねっと協議会では支援を要する子どもの状況を、他保育園とは2歳児保育終了後の保育環境などを収集しています。評議員会では都を含む地域の保育状況や行政の動向を、系列短大からの幼児教育や系列高校のキッズクラブ活動、養護教諭からの伝染病情報などを参考にしています。また区の保育課情報、業界の月刊誌や冊子からの情報を含め必要情報は職員と共有しています。</p>			

※実施あり:○、実施なし:×、非該当:-

カテゴリ4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	実施状況
標準項目1	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	×
標準項目2	年度単位の計画を策定している	○
標準項目3	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○
評価項目2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	実施状況
標準項目1	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○
標準項目2	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○
標準項目3	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○
標準項目4	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○
評価項目3	着実な計画の実行に取り組んでいる	実施状況
標準項目1	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○
標準項目2	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	○
標準項目3	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○
標準項目4	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○
サブカテゴリ2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	実施状況
標準項目1	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○
標準項目2	事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○
標準項目3	事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
標準項目4	事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○
<b>講評</b>		
法人全体の中・長期計画は策定していますが、園独自の3か年計画の策定を期待します		
<p>法人の中・長期計画の基本方針を踏まえ、園独自の課題解決型の中期3か年計画を策定し、主要課題に着実な成果を期待します。単年度計画は周知を集め、事業計画、指導・行事・研修・防災などの諸計画を策定し、課題解決を図っています。短期の計画も月間指導計画や週案、行事ごとの計画を策定するなど、きめ細かな運営を図っています。年度末の反省を踏まえ、職務分担に沿って立案し、各リーダー・主任・園長と協議し、職員会議にて協議・決定し、総務、本社決裁の手順で決定していますが、これもフローチャート化を期待します。</p>		
職務分担表の設定、先進事例の取り組み、結果の振り返りなど着実に取り組んでいます		
<p>職務分担表では、業務ごとに役割と担当者を定めています。高い成果を目標に先進事例に取り組んでいます。例えば他園の事例から指導計画や週の実績の反省と計画の見直しを、各行事についても終了後の反省や保護者アンケートを参考に翌年の計画に反映し、個人の目標設定も、期ごとの振り返りと園長面談でこの結果を個々の育成に反映するなど、各計画の精度向上、職員の育成にも視点をおいて取り組んでいます。</p>		
関係諸機関と連携し、また危機管理マニュアルなどを整備し安全確保に取り組んでいます		
<p>消防署とは毎月の避難訓練、年1回の消火訓練指導、AED指導など、警察とは不審者パトロールなど、保健所とは調理場や食物検査など、区の行政メールで感染症の情報を把握するなど関係諸機関と連携しています。また設備点検の実施、災害用備蓄、緊急通信用に各クラスに携帯を配備し安全確保に取り組んでいます。危機管理マニュアル(防災・ヒヤリハット・不審者など)を整備し、ヒヤリマップを含め事務室にファイルしています。系列高校養護教諭から健診の斡旋を、事故には要因分析を含め職員会議で共有し再発を防止するなど万全を尽くしています。</p>		

※実施あり: ○、実施なし: ×、非該当: -

<b>カテゴリー5 職員と組織の能力向上</b>		
<b>サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる</b>		
評価項目1	事業所にとって必要な人材構成にしている	実施状況
標準項目1	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○
標準項目2	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○
標準項目3	適材適所の人員配置に取り組んでいる	○
評価項目2	職員の質の向上に取り組んでいる	実施状況
標準項目1	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○
標準項目2	事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○
標準項目3	個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	○
標準項目4	職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	○
標準項目5	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○
<b>サブカテゴリー2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる</b>		
評価項目1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	実施状況
標準項目1	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○
標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○
標準項目3	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○
評価項目2	職員のやる気向上に取り組んでいる	実施状況
標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○
標準項目2	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○
標準項目3	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○
標準項目4	福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○
<b>講評</b>		
<b>保育者のあるべき人材像を明示し、勤務評価結果の報酬への反映などを明確にしています</b> 保育方針に、保育者のあるべき人間性を明示し、各自の目標設定と振り返りや園長面談、勤務評価の報酬への反映などの人事制度のしくみがあります。人材は園の要望を踏まえ、本社事務局が面談により人間性、保育への姿勢などを参考にして採用しています。人員配置は、園長が経験や利用者とのかかわりなどから判断しています。個人目標を設定し、年2回の振り返りと園長面談で課題の共有や本人の希望などを配慮し、年度初めに研修計画を策定しています。受講料、勤務シフトなどに配慮し、受講後の報告、成果、目標達成度などを評価の材料にしています。		
<b>組織図や園長以下の役割を理解し、自己の役割を超えた場合の対応を認識しています</b> 園の組織図および園長以下の役割を定め、年度初めの職員会議で配付し園長が説明をしています。組織図では、評議員(本社)、園長、主任、各クラスの仕事の流れを明示し、各クラスにはリーダーを指名しています。園長は園の運営責任者として指揮監督すること、主任は保育全般を見て問題解決することとしています。職員は職員会議、クラス会議などで事案の討議に参加し、保育日誌、連絡帳などを閲覧し、お互いに工夫や知恵を学び合っています。また研修報告を共有して実践に活用し、研修受講の成果の還元にも努めています。		
<b>園長は、専門性の能力、勤務態度の視点から勤務評価を行い、報酬に反映しています</b> 年度初めに職員は個人目標を設定し、年2回の振り返りと見直し、年度末に達成度を自己評価しています。園長はこの結果で個人面談を行い、年度末には勤務評価を実施して本部に提出し、給与、賞与に反映しています。職場において園長は、職員の有給休暇、休憩時間の取得について勤務体制を工夫し、系列高校養護教諭は健診の再検査の徹底などの健康管理に取り組んでいます。また、研修受講、勤務評価の報酬への反映、夏休み10日の取得や福利厚生などにも取り組んでいます。一方、今回の職員自己評価結果は十分とは言えず、更なる改善を期待します。		

※実施あり: ○、実施なし: ×、非該当: -

カテゴリー7 情報の保護・共有			
サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○
標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している		○
標準項目3	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		○
評価項目2	個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		実施状況
標準項目1	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○
標準項目2	個人情報の保護に関する規定を明示している		○
標準項目3	開示請求に対する対応方法を明示している		○
標準項目4	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		○

講評

機密情報やパソコンデータは事務室内で施錠管理し、園内においてのみアクセスできます

利用者や職員の機密情報など、パソコン情報を含め施錠保管しています。保管場所の事務室は施錠し園長が管理しています。パソコンには機密情報は記録せず、加えて園内に限りアクセスできるよう設定しています。従って、職員は必要ときに園内であれば、園長の許可で閲覧できます。文書管理は、園長・主任が手分けして、毎年3月末に文書ファイルの改廃を行っています。

個人情報の扱いは、入園時にプライバシーポリシーを説明し同意書を交わしています

入園時に保護者に保育園のしおりを配付して園長が説明し、理解を得ています。しおりにはプライバシーポリシー(保護宣言)が明示されていて、保護者と個人情報利用に関する同意書を交わしています。プライバシーポリシーには個人情報保護法に基づいて個人情報の収集方法、利用目的および管理方法を定めています。情報開示請求の扱いは、法人の情報公開規程第7条に開示の方法を定め、これに準じて重要事項説明書で説明しています。職員は入職時に機密保持の誓約書を、実習生などは法人と学校間で契約書を交わすなど個人情報保護に取り組んでいます。

※実施あり: ○、実施なし: ✕、非該当: -

<p>カテゴリー8 カテゴリー1～7に関する活動成果</p>	
<p>サブカテゴリー1 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している</p>	
<p>評価項目1</p>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」</li> <li>・カテゴリー2:「経営における社会的責任」</li> <li>・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<p>改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</p>
<p>新たに入園オリエンテーションで、理念、方針や留意事項などの周知を図りました</p> <p>従来、新入園児の保護者に対して、3月の初めに個人面談を行い、家庭状況や預かり時間の希望などを聴取し、園からは入園手続き、保育概要や1日のプログラムや緊急時の対応方法などを説明してきました。4月の全体保護者会では、新年度の方針や全体計画を説明してきましたが、新入園児の保護者には伝わりにくい点がありました。そこで、本年度からは新入園児のみ、3月の終わりの土曜日にオリエンテーションの機会を設け、理念・方針、お願いごと、行事計画、体調急変時の対応法、入園事務など詳細の説明を開始しました。この結果、保護者からは質問事項も減り、安心して入園ができ、円滑に通園が迎えられたとの声が聞かれます。</p>	
<p>サブカテゴリー2 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している</p>	
<p>評価項目1</p>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<p>改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</p>
<p>研修テーマの改定により、各年齢に適合した保育技能の学習を始めました</p> <p>0、1、2歳児ごとの子どもの発達に適合した保育技能の必要性は認識していましたが、容易にこれらに適合するカリキュラムが得られませんでした。諸般の調査、探索に努めた結果、ようやく某情報誌から該当カリキュラムの記事を把握し、研修計画に組み入れることができました。早速、経験の浅い若手保育士から受講を開始しました。個々の指導計画作成時には、子どもとの接し方、子どもの動き、要望を察知してのかかわりなど、保育サービスの質的向上が聞こえてきます。</p>	
<p>サブカテゴリー3 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している</p>	
<p>評価項目1</p>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」</li> <li>・カテゴリー7:「情報の保護・共有」</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<p>改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</p>
<p>新しいシステムキッチンを設置し、調理の迅速性や衛生管理の向上を図りました</p> <p>従来の調理場は家庭用のシステムキッチンで、木製の戸棚、流し台などの老朽化に対して修繕を重ね、ガス栓も少なく不自由な状況にありましたが、今年度調理室の改修とともにステンレス製のシステムキッチンの導入を図りました。ガスコンロが3口から4口に増え、ガス供給量が25%アップし調理や離乳食の作成の効率化や衛生管理面も改善されました。園児たちへの食事やおやつへの供給サービスと安全性の向上が期待されます。</p>	
<p>サブカテゴリー4 事業所の財政等において向上している</p>	
<p>評価項目1</p>	<p>財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている</p>
<p>評価結果</p>	<p>改善に向けた計画的な取り組みが行われていない</p>
<p>財政面で、特に改善されるような成果は得られませんでした</p> <p>財政改善に向けた計画的な取り組みは、特に行われていません。</p>	
<p>サブカテゴリー5 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している</p>	
<p>評価項目1</p>	<p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<p>改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</p>
<p>保育士と子どものかかわりの様子を観察したいという要望に応えました</p> <p>保育士と子どもとの保育を通してのかかわり合いを観察したいという要望から、従来は保育参加を年1回実施してきました。保護者が直接見えるところでは、子どもたちは保育士よりも母親のところに寄り添ってしまい、思うような場面を設定するのは困難な状況でした。そこで保護者の要望に応えるよう工夫した結果、例えば子どもの食事中の時間帯に保護者に来園してもらい、保護者は段ボールなどで体を見えないように、穴からのぞき見したり、現在は段ボールを不織布などに変えてカーテンのような自然の環境に似せて、同様に穴からのぞき見できるよう切り替え中で、保護者からは評価が得られています。</p>	

## VI サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6)

カテゴリー6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
	評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
	標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○
	標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
	標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○
講評			
<p>ホームページやパンフレットで園の情報を発信しています</p> <p>園情報は園のホームページやパンフレットで発信しています。園のパンフレットは区の担当課の入園相談窓口において入園希望者がいつでも手に取ることができるようになっています。園のホームページでは「とどらあるうむ」の由来の紹介、年間行事、遊び、食事、体験保育、地域交流などについて写真やイラストを入れて詳細に掲載し、希望者が知りたい情報を見られるようにしています。園のパンフレットには園の概要、年間行事、デイリープログラムなどを掲載し、三つ折りで持ちやすく作成されています。ホームページは写真の変更時に更新しています。</p>			
<p>園の行事に地域の方の参加を呼びかけ、さまざまに園の情報を知らせています</p> <p>ホームページや園のパンフレットで紹介した園の行事には、地域の方をお誘いして保育園の様子を伝えています。園の掲示板には、園便りと年間行事計画表、地域の方も参加できる行事のポスターなどを掲示し、また公園などに散歩に出かけた際には近隣の方々に行事のパンフレットを配付したり、園行事への参加を呼びかけたりしています。さらに近隣の公立保育園との交流では、園相互に打ち合わせをして行事を行うなど、お互いに幅広く園の情報を発信しています。</p>			
<p>園見学の保護者にはていねいに対応し、育児相談にも応じています</p> <p>入園見学者は電話で受け付け、午後から対応するようにしています。時間の調整がつかない人には本人の希望を聞いて決めています。見学者には主任が対応し、パンフレットを渡して各部屋や子どもの様子、展示物や掲示物を見てもらいながら、見学者からの質問や不安の声などにていねいに対応しています。例えば2歳児以降の受け入れや持ち物の準備などについて話をしたり、離乳食の試食をしてもらったりしています。育児の相談も受け付けています。今後は日中の子どもの写真をアルバムにして資料を利用してはいかがでしょう。</p>			

サブカテゴリ-2 サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

講評

入園前の面接を実施し、各提出書類で子どもや家庭の状況を把握しています

入園が決まった家庭には事前に提出書類を取りに来てもらい、面接日時を決めるようにしています。入園前の健診をして家庭状況表や入園までの生活状況の提出資料を見ながら、各クラスリーダーが面談を行い、子どもの状況、健康、食事面、保育時間などの聴き取りをして、一覧表を作成しています。3月末に新入園児の保護者会があり、「保育園のしおり」に沿って園長と主任が園の概要や理念、園生活の約束事などの説明をしています。苦情解決のしくみやプライバシー保護、個人情報管理などについても説明し、入園後に承諾書を提出してもらっています。

個々の情報を職員間で共有し、新入児が無理なく園生活に慣れるよう配慮しています

入園時の子どもや家庭の様子は入園前の面接や提出書類で確認し、保護者の個別事情や要望など個々の把握をするようにしています。面談時に聞いた情報は新入時面接報告書に記録し、新年度職員会議でリーダーが担当ごとに伝達して全職員が情報を共有しています。入園当初の保育期間は、保護者の希望により、就労や個々の様子を見て対応しています。同じ職員が担当制で受け入れて、場合によっては、愛玩物の持ち込みを認め、おしゃぶりも家庭と同じものを使用するなど、新入園児が無理なく園生活に慣れるよう配慮しています。

転園に期待を持てるよう配慮し、継続した支援を行っています

当園は0～2歳児までの乳児園であることから、卒園後の幼児との生活に慣れるよう、他の公立園との交流で幼児クラスの環境を体験してもらい、期待を持って転園できるよう配慮しています。卒園児や転園児には思い出のアルバムや製作物の作品集を贈り、いつでも遊びに来られるように声を掛けています。園行事の際には、はがきで招待状を出してお誘いをしています。このような継続した支援を行うことで、小学生になっても学校帰りに園に顔を出したり、通りがかりに声掛けするなど保育園とのつながりが続いています。

サブカテゴリ-3 個別状況に応じた計画策定・記録			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目2	保育課程や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている	○
	評価項目3	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目2	申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○
<b>講評</b>			
<p>子どもの心身の発達状況や生活の様子を、各様式に記録し継続した支援をしています</p> <p>日々の子どもの様子は連絡帳や保育日誌に記録して、健康状況は「健康の記録」に記載しています。さらに入園時の提出書類は個別ファイルで「児童表」につづり、これらの記録を基に個人別発達記録を作成しています。発達記録は個々の子どもの成長の過程を項目ごとに月齢・年齢ごとに確認年月で記録し、健康・養護・教育事項について0歳児は毎月、1、2歳児は3か月に1回自由記述をしています。また家庭状況の変化は随時変更、追記をするとともに保護者との面談の記録もファイルでまとめ、子どもの育ちや発達の推移が見えるようにしています。</p>			
<p>保育課程を基にして年・月・週の指導計画を立案し、日々の保育を実践しています</p> <p>保育課程は毎年見直しを行い、理念や方針を基に養護・教育・食育の分野で年間・月間・週案を作成しています。さらに0～2歳児まで月間計画に個別指導計画を作成し子どもの様子や育てたい内容や保育者のかかわりを個別に記録しています。計画作成時は反省・評価を行い次期の計画を立てて、園長・主任が点検して職員会議で発表し全員で共有しています。保護者には月間指導計画は階段の所に掲示しています。さらに保育課程や週案の掲示で活動が見える工夫や活動の変更などは赤字で訂正して補完するなどの工夫を望みます。</p>			
<p>定期的な会議で家庭の状況や子どもの発達など、全員で把握し支援にあたっています</p> <p>クラスごとに月2回打ち合わせ会議を行い、子どもの様子や保育の予定、環境や保育計画の見直しなどを話し合い、保育内容の充実につなげていきます。職員会議は月1回行い、全職員に月・週・個別指導計画を配付してクラスの状況を把握して保育を共有するほか、行事の計画や研修報告・避難訓練など全体にかかわる事項の話し合いをしています。また必要に応じて昼の打ち合わせを行い、毎日の連絡は欠席児や保育時間の変更、行事や今日の予定などについて事務連絡票に各自が記入して回覧し、職員名に閲覧チェックをして漏れのないようにしています。</p>			

サブカテゴリ4 サービスの実施		
評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○
標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
標準項目4	特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	-

講評

室内を見渡せる環境で、子どもが主体的に遊べるコーナーを設定しています

当園は0～2歳までの小規模園で、1階は0歳児室とランチルーム、2階は1・2歳児室で、室内は開放的で全体の様子が見渡せることができます。室内はパーティションで仕切り生活と遊びの部屋に分け、絵本、ままごと、ボール、人形、布製の手指の発達を促す手作り遊具など少人数で遊べるように工夫しています。0歳児は月齢差で睡眠や休息がとれるように午睡は個室でしています。子どもの年齢や発達に合わせた遊びや自分の居場所を作り興味を持った遊びができるよう生活環境を見直しながら、家庭的で快適な環境で過ごせるようにしています。

生活の中で異年齢の自然なかかわりを持ち、外国の行事で異文化を体験しています

日常生活の中でランチルームで食事をし、午前午後のおやつは合同で食べているので子ども同士顔を合わせる事が多く、声掛けや握手は日常に行われています。1・2歳児は「ベンちゃんとおぼろ」の日は製作物で遊んだり、1歳児と一緒に製作をして2歳児のまねをして同じようにするなどのかわりが見られます。また、ハロウィンの行事では仮装をして商店街を歩き、「トリックオアトリート」と言いながら商店街の人からお菓子をもらい、クリスマス会ではサンタクロースからプレゼントをもらってノエルのケーキを食べるなど異文化の体験をしています。

配慮が必要な子どもの支援や子ども同士のトラブルへの対応に努めています

身体的な配慮の必要な子どもには、疲れないよう遊びや運動面で体力や顔色を見ながら配慮をしています。また、掛かりつけの医師からの注意事項を保護者から聞いて、職員全員で共有して成長を支援しています。乳児の発達の過程で起きるかみつキやひっかきには、その子どもの特性や言葉で表現できない思いをくみ取って気持ちを落ち着かせ、言葉や手が出るけんかには双方の状況を見て諭しています。保護者にはていねいに説明して理解を得ています。

評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
標準項目3	休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

講評

送迎時に子どもの状況を共有し、さまざまに園での活動の様子を発信しています

登園時は各部屋で受け入れて職員による視診とけがなどの様子を見て、保護者から家庭での状況を聞いています。同時に連絡帳の内容を確認し、質問があればその場で聞いています。連絡帳は0～2歳児は同じ形式のものを利用し、健康状態や食事・ミルクなどの状況と園と家庭の様子を記述して相互の情報共有が行われています。お迎えも部屋で個別に行い、その日に見られた成長の様子など報告しています。ホットフォト(写真掲示)を玄関や2階に掲示してその日の様子をタイムリーに知らせ、園の様子が目に見えるように保護者に知らせています。

子どもの意欲を大切に、基本的な生活習慣が身につくような援助をしています

年度当初の懇談会資料で年齢ごとの子どもの成長の目安や生活習慣の自立に向けた園の取り組みを保護者に説明し、家庭と協力しながら無理なく進めています。個別計画表を作成して子どもの意欲を大切に援助し、排泄は個々の排尿感覚を把握し生活の節目に促し、2歳児クラスで自立できるようにしています。着脱は着替え時の「自分でやる」意欲を大切にし、1歳児が2歳児の姿をまねて意欲を増しています。食事はスプーンやフォークを使用していますが、0歳児にもスプーンを置いて、手づかみから握り持ち、すくい持ちを教えています。

個々の生活リズムや発達状況に応じた休息と午睡時間に配慮しています

天気の良い日はお散歩活動をメインにして食事や午睡がとれるようにしています。0歳児は個々のリズムによって睡眠が不定期になるため、おんぶや抱っこで眠りに誘い、午睡室で静かに眠れるよう配慮しています。1・2歳児は同じ部屋で場所を変えて時間差で眠り、明るさや室温を調整して担任がそばにつき添い安心して眠れるようにしています。早く目覚めた子どもは別の部屋で担任といっしょに過ごしています。睡眠中は睡眠安全チェック表に基づいて定期的に体位・咳・鼻づまり、呼吸などを確認し、SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防をしています。

評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○
標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○
標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○
標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○

講評

子どもが主体的に遊べるように、年齢や状況に合わせた室内環境を工夫しています

子どもの遊びが充実するようにコーナーをさまざまに工夫して、遊びの幅を広げています。ままごと遊びではごっこ遊びに発展し、パズルや絵本や積み木など好きな遊びを楽しんで遊び込めるようにしています。併設する高校の校庭でコンビカーや三輪車で競争をしたり、体育館ではマットや平均台、ボールプールなどで運動遊びをしています。また子どもたちが存分に音楽遊びができるよう鈴、マラカス、カスタネット、タンバリンなどを自由にらせるように棚に置き、音を楽しんだりCDに合わせてリズムをとって遊ぶなど、子どもが遊び込める場所があります。

自分の気持ちを伝える発語を促し、さまざまな表現遊びをしています

自分の気持ちを伝えられるように0歳児にはベビーサインを取り入れて発語を促し、1歳児は繰り返し言葉や言葉のキャッチボールを楽しんでいます。2歳児はごっこ遊びで友だち同士の会話や自分の気持ちを言葉で伝えていきます。毎月のカリキュラムに手遊び、歌、絵本、製作の予定を入れています。絵本や紙芝居でイメージを膨らませ、季節の歌や童謡を歌い、わらべうたや手遊びでスキンシップをとり手指を使って遊び、年齢に応じたりズム遊びや「ベンちゃんとおぼろ」で作ったもので遊んだり、季節の製作をするなどさまざまに表現遊びを楽しんでいます。

毎日の散歩や園外活動で自然体験を重ね、自然の営みを体験しています

子どもたちは天気の良い日は毎日のように散歩に出かけています。池がある公園ではカモや魚を見たり、自然いっぱいの公園で桜を見たりどんぐりを拾ったり、季節を感じながら発見や驚きに共感しています。滑り台やアスレチックなど遊具で遊ぶときには順番を守る、並んで待つなどのルールを知らせ少しずつ気持ちをコントロールできるようにしています。プランターでは2歳児がさつま芋、トマト、きゅうり、なすなどの苗を植えて水やりをして生長を観察し、金魚やかめ、かぶとむしを飼育し、みかんの木の青虫がさなぎから蝶になる過程を体験しています。

評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○
標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○

講評

季節に応じた行事や異文化体験で、子どもの興味を豊かに広げています

一年を通して季節に合わせてさまざまな行事を行っています。伝承行事では子どもの日、七夕、敬老の日、新年おめでとう会、節分、ひな祭りなどそれぞれの伝承文化に合った製作をしたり歌をうたい、行事食を提供し、紙芝居や絵本などで興味を持たせ、行事の由来を知らせています。ハロウィンやクリスマスの行事では部屋を装飾してツリーなどを飾り、仮装をしてお菓子をもらったり、サンタクロースからプレゼントをもらうなど異文化を体験しています。誕生日会はその子どもの誕生日に行い、ランチルームで大きくなったお祝いをみんなでしています。

子どもたちが準備を手伝ったり、ふだんの活動を入れた行事で喜びを体験しています

地域の人や交流園の園児、保護者が参加する「とどらあまつり」では、職員や子どもたちが準備をしてお祭りを盛り上げています。子どもたちがシールや染め紙、手形などで飾り付けをしたおみこしや和紙で作ったちょうちんを会場に飾り、金魚すくいの金魚はペットボトルのふたを合わせて作るなど準備にかかわり、みんなで楽しみ協力した喜びを味わっています。子どもたちはふだんから自由に楽器に触れ、音を感じてリズムをとって合奏をするなど音楽に興味を持ち、「小さな音楽会」では年齢に合わせて演奏を発表しています。

保護者参加の行事は家族で楽しめるよう工夫し、子どもの成長を共感しています

保護者参加の行事は年度当初に年間計画表を配付し、行事前にはお知らせを出すとともに、「ホットフォト」で写真を掲示し家族みんなで参加できるよう内容を充実するようにしています。日々の遊びの内容を中心に、装飾には子どもたちの作品を取り入れるなど、親子で期待を持てるよう工夫して企画を立てています。運動会は親子競技、祖父母の競技、保護者同士の競技、卒園児や地域の人々の自由参加などで盛り上がり、音楽会は家族や友だちみんなで音楽に触れて楽しむなどさまざまな人の協力を得て行事を実施しています。

	評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
	標準項目1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○
	標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○

講評

長時間の園生活を考慮し、子どもたちが落ち着いて遊べるよう工夫しています

一日の大半を保育園で過ごす子どもたちが落ち着いて過ごせるように、0歳児は保育者とのかかわりを深め、スキンシップをとったり個別にかかわることで情緒の安定を図れるようにしています。また子どもが好きな場所や一人で遊べる場所に誘い、機嫌が悪いときは飼育動物を見たり、近くを走る電車や新幹線を窓から見せて気持ちを落ち着かせるようにしています。そのほか抱っこをして他クラスに遊びに行ったり年上の子どもの遊びを見たり、いっしょに遊んでもらったり、0歳児の午睡室でクールダウンするなど子どもの気持ちに沿って配慮しています。

異年齢の育ちを大切に、安定した気持ちで過ごせるように配慮しています

延長保育は1階の0歳児室で行っており、人数によっては1階の0歳児午睡室でも遊んでいます。担当は毎日同じ職員が入れるように配置して、子どもが安心して過ごせるようにしています。補食後は異年齢合同保育になり、延長用のおもちゃやパネルシアター、大型絵本など、異年齢でも楽しめるものを用意しています。2歳児が0・1歳児を可愛がり、おもちゃを貸してあげたり、ままごとでは食べ物を持って行くなどお世話をしています。これらの様子は延長日誌に記録し、お迎えに来た保護者に子どもの様子を伝えています。

	評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
	標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○
	標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○
	標準項目3	子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○
	標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○

講評

家庭的な雰囲気の中で食事をし、行事食は見た目にも楽しく工夫しています

区の統一献立を使用しています。旬の素材を生かし、ご飯、麺、パン食をバランスよく組み合わせ、薄味の調理で味覚の発達を助けています。調理室の前にランチルームがあり、食事の準備の匂いも漂い、期待感をもって調理の職員と会話するなど家庭的な雰囲気、机をつなげて楽しく食事をしています。行事食にはこいのぼりクッキー、七夕には星形ホットケーキ、サンタクロースの人形クッキーなど行事にちなんだおやつがあります。調理の職員が子どもの喫食状況をみて、パンが苦手な子には焼いたりジャムを付けるなど食が進むように配慮しています。

アレルギー対応や体調不良など、個別の状況に応じた食事を提供しています

食物アレルギーのある子どもは入園時の保護者の面談で確認し、園長、担任、調理職員が医師の指示書を基に、献立表で食材調査をして除去内容をチェックして、アレルギー対応の献立表を作成しています。その内容は会議で報告をして共通理解を図り、配膳時にはメニューと食事内容を調理の職員と配膳をする職員で確認し、サインをして提供し、誤食のないようにしています。また体調不良の子どもには保護者と確認のうえ、牛乳を控え消化のいいもので対応しています。そのほか保護者の要望で、マーガリンの使用については除去するなど配慮しています。

年齢に応じた食育活動で、食への関心と興味を広げています

年間食育計画で「何でも食べられる子」「本物の味を知る子」「食事の楽しさを知る子」を目標に年齢別のねらいを立てて食育活動を行っています。2歳児の食育計画では、プランターで野菜の苗植えをして水やりをして生長を観察し、収穫した野菜は給食で食べたり、野菜スタンプに活用しています。クッキングでは白玉の月見団子作りやクッキーの型抜き、パンの生地を形どるなど調理工程に参加することで食への関心を持たせています。また保護者には給食便りで四季折々の食生活の注意や献立のレシピを載せるなど情報を発信しています。

評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○
標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○
標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○

講評

日々の生活の中で子どもたちの安全への意識や健康の大切さを知らせています

年間保健計画の中で月別の目標を立て、行事や保健教育を行っています。室内では職員は子ども目線に立って安全な環境を整備するようにしています。散歩時には帽子をかぶり職員が手をつなぎ、信号の渡り方や道を歩くときのルールを教え、公園に着いたら危険箇所や約束事を話をして、必ず職員がそばについて遊びます。0歳児には日光浴や外気浴をして皮膚を鍛え、うがいには小さい紙コップを使ってぶくぶくうがいをする事や、手の洗い方ではわかりやすく手の形のポーズ表で手の平から手首まで洗えるように教えるなど感染症予防に努めています。

囑託医や保健室と連携体制を整え、日々のケアに努めています

日々の子どもの健康状態は、登園時の視診や保護者からの伝達や連絡帳で把握し、その日の体調に応じたケアに努めています。毎月の身体測定で発達状態を確認するほか囑託医の内科健診や歯科健診を定期的に行い、併設する系列高校の保健室と連携して耳鼻咽喉・眼・歯の健診を行っています。健診時に担任が健康面での心配などを園医に相談する体制があります。園では飲み薬は原則として預からず、アトピーの塗布薬は医師の指示書を受けて預かり、職員は養護教諭からAED(自動体外式除細動器)やアナフィラキシー治療補助剤などの講習を受けています。

各種感染症を含む保健の情報を保護者に提供し、予防に取り組んでいます

保健室から毎月保健便りを発行し、四季の健康や感染症、健診の情報をイラスト入りで詳細に発信しています。園で感染症が発生した場合は入り口の掲示板で発生状況や症状などを掲示し、保護者に注意を促して蔓延防止に努めています。さらに感染症にかかった園児の一覧表を作り担任が経過観察を記録しています。SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防として睡眠時に定期的にチェックをして保健便りで掲載していますが、今後は保護者会などでプリントを配付して要因や症状を説明するとともに、職員にも定期的に勉強会を開催してはいかがでしょうか。

評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○
標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	○
標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○
標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○
標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○

講評

保護者の就労や家庭の状況を把握して、柔軟に対応した支援をしています

個々の家庭環境や保護者の要望や意向は、個人面談や送迎時の会話や連絡帳で把握するようにしています。保護者の就労や家庭の都合で送迎時間が変わるときは柔軟に受け入れ補食にも対応し、保育参加日に参加できないときは別に日を設けたり、土曜保育なども柔軟に受け入れていきます。保育中の急な発熱などには保健用の個室ベッドでお迎えまで待つようにしています。入園時には家庭での負担を軽減するよう、園で用意できるものは揃えるようにしています。また子育ての悩みなど相談しやすいように、保護者とのコミュニケーションにも配慮しています。

懇談会や保護者参加や行事で、共通理解を持ちコミュニケーションを図っています

園の子育てなどさまざまな取り組みによって保護者との共通理解を行っています。年2回行われる懇談会では自己紹介や園便りで、名前の由来を事前に紹介しているので親しみが持て、懇談会のテーマとともに子育ての悩みの相談など、保護者同士で話をして納得して解決しています。保育参加では触れ合い遊びやベビーマッサージなど1・2歳児は製作やお散歩で砂遊びをするなど園の保育を体験しています。運動会は家族揃って参加して親しく楽しめる企画を立て、保護者や職員も交流して盛り上げ楽しい行事となっています。

保護者の意向の把握に努め、保育の可視化に向けて取り組んでいます

クラスの代表者3名と園長・主任・事務局が参加して年に3回、拡大委員会を開催しています。園長からクラスや子どもの様子の説明があり、保護者から保育の感想や、一年を振り返っての良好な意見が出されています。園行事などの参加率が高く、子どもの発達や成長を見る機会が多いので共感楽しんで育児ができるようにしています。さらにホットフォトで誕生会や生活の様子、製作遊びなどを機会を捉え玄関に掲示し、子どもや生活の様子の可視化を行っています。アンケートでも保護者からの感謝の言葉が寄せられています。

評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
標準項目1	子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○
標準項目2	園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○

**講評**

子どもたちが地域の人とのかかわりを深め、地域に根ざした保育園として発展しています

全ての行事に地域の方をお誘いし、見学者に行事の参加を呼び掛けたり公園などでの声掛けや行事予定表やポスターなどを掲示しています。併設の高校の体育館や会館の広場を借りて運動会や「とどらあ祭り」を行ったり、近隣の公園や児童センター、図書館の利用など地域の施設とのかかわりを持っています。商店街の祭りに参加したり、ハロウィンでは仮装をして商店街を歩いてお菓子をもらうなど身近に親しく交流をしています。多様な地域の人とのかかわりを持ち、地域の中に根ざした保育園として子どもたちの社会性を広げています。

行事を通して、子どもたちが職員以外の人と交流する体験を広げています

園の行事「とどらあ祭り」は系列高校の広場で行い、おみこしで町内を一周しお店屋や盆踊りなどを盛大に行い、地域の人や近隣の保育園児も参加しています。製作物の講師が定期的に来園し、作った製作物で遊んでいます。ボランティアの絵本の読み聞かせ、お話会での読み聞かせ、人形劇などに近隣の保育園児も参加しています。近隣の複数の公立園との交流でおもちつきや園庭での砂場遊びなど自園ではできない体験をしたり、高校生の実習体験や園児の祖父母との交流など多様な機会を設けています。

サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
標準項目1	子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
標準項目2	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○
評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
標準項目1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
標準項目2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○
標準項目3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
標準項目4	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○
標準項目5	虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○

講評

個人情報の取り扱い、子どものプライバシーや羞恥心に配慮しています

子どもの個人情報の取り扱いについては「保育園のしおり」の中で明記しています。保護者には個人情報保護法の説明や利用目的、管理などについて具体的に説明して、日常の様子・行事・誕生会などの写真や名前の掲示について同意書を提出してもらっています。子どもの羞恥心への配慮について、おむつ交換時はロールカーテンを閉めたり、排泄の失敗などはスペースを決めてつい立てで囲うなどしています。プール時はすだれを掛けて外部からの視線を遮り、着替えはすべて室内で行うなどさまざまに羞恥心に配慮しています。

子ども一人ひとりの気持ちを大切に、保護者の考えも尊重するようにしています

保育課程の中で子どもの最善の利益をいつも頭において、子ども一人ひとりを正しく理解し、好ましい成長に向けて誠実な心と和を大切にするとともに、日常の保育は子どもの気持ちを大切に、子どもの人権を尊重する保育をするとともに、保護者の状況は日々の会話や面談などで保護者の要望を聞いて、保護者の考えを尊重するようにしています。今後は保育の基本書のマニュアルを整備し、具体的な内容で項目を書式化して職員が自分の保育の振り返りができるように工夫することが望まれます。

虐待防止に向け職員研修で共通の認識を図り、関係機関と連携する体制があります

子どもの虐待などの早期発見に向けた区の子ども虐待防止対応マニュアルに沿って、虐待が発見された場合は区のこども家庭あんしんねっと協議会の中で各関係機関と確認し、連携が取れるように手順が図式化されています。職員は子どもの虐待を考える研修会に参加して資料をもとに勉強会を行い、職員全体で共通認識を図り適切な対応につなげています。登園時に視診をして親子の健康観察や様子を観察したり、子どもの着替え時や食事の際にも観察をするとともに、虐待の疑いや変化があった場合は、園長に報告し地域の関係機関と連携する体制があります。

サブカテゴリ-6 事業所業務の標準化		
評価項目1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
評価項目2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
標準項目3	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
評価項目3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	実施状況
標準項目1	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
標準項目2	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
標準項目3	職員全員が、子どもの安全性に配慮した保育ができるようにしている	○
標準項目4	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
標準項目5	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

講評

各種マニュアルを作成し、業務の標準化に取り組んでいます

業務の標準化に向けて分野ごとにマニュアルが作成されています。運営面・保育計画作成・散歩・入園・防災関係・保育業務・会議など32項目の内容で作成され、さらに保健マニュアルは1冊のファイルになっておりさまざまな手順が図式や箇条書きでわかりやすく記載されています。これらのマニュアルにより職員が一定のレベルで業務にあたれるようになっていきます。マニュアルは事務所のロッカーに保管して、判断に迷ったときや業務の点検の手段としていつでも活用できるようになっています。今後は分類するなど整備して見やすくする工夫が望まれます。

マニュアルは必要に応じて見直し、職員の意見を取り入れて訂正しています

マニュアルは1年に1回職員会議で見直しを行っています。そのほか業務上の問題点や改正の必要があった場合は、会議で検討して追加や変更をしています。また保護者からは拡大委員会や行事などのアンケートで意見を聞いて、必要な部分は検討して見直す場合もあります。職員からの改善案は環境面、指導案・保育日誌の様式変更、ヒヤリハットからの環境設定、会議の効率化、消毒の仕方などがあり、見直しをすることで業務や時間の効率化が図られ職員が一定のレベルで仕事をできるようにしています。

保育現場での職員育成や各種研修に参加して、知識の共有化を図っています

新任職員や経験の浅い職員は、リーダー職員やベテラン職員と組み合わせ、日々の業務の中で知識や技術を得られるようにしています。職員は年2回、目標計画表で業務の目標に対して振り返りと反省を行い、自己評価を基に園長と面談して助言・指導をしています。研修計画があり、手作りおもちゃなどの園内研修、外部研修、経験年数や業務に応じて取得したい保育技術の研修など積極的に研修に参加しキャリアアップに努めています。研修後は研修報告書を作成して職員会議で伝達を行い、全職員で知識の共有化を図り子どもの保育に還元しています。